

～「IT パスポート 最新版！傾向と対策」～

1. IT パスポート試験とは

(1) どのような試験なのか

IT パスポート試験とは、経済産業省 情報処理技術者試験のレベル 1 に相当し、
職業人として誰もが共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を測る試験
です。試験内容は、
4 択の問題 100 問
を、
2 時間 45 分
で解くというものです。

レベル 1 は「基礎レベル」ですので、初心者～経験者の方に目標にして頂ける資格で
す。特に学生の方は在学中に取得することをお勧めします。資格取得のメリットの一つ
には、「コンピュータを利用するための基礎レベルの知識を有している」ことを、就職活
動においてアピールできるなどが挙げられます。

さらに、「IT パスポート」からステップアップして、「基本情報技術者」まで取得す
れば、さらに有利になるでしょう。一般職の社会人や文系出身の方で、いきなりレベル 2
の基本情報技術者試験(午前試験と午後試験(応用)がある)へ挑戦するのはハードルが高い
と感じる方は、その前のステップに IT パスポート試験で基礎を学ぶことをお勧めします。
それを、次の基本情報技術者試験に活かしてステップアップしてはいかがでしょうか。

(簿記や語学など他のスキルと併用して、スキルアップして頂くのもよいでしょう)

(2) 資格取得のメリット

- ・ IT スキルを公的に証明できる
- ・ 上級資格のベースとなる知識が習得できる
- ・ 就職や進学に有利

(3) 合格するためには何点取ればいいのか

- IT パスポート試験に合格するためには、
- ・ 総合得点が、満点(1,000 点)の 60%以上
 - ・ 各分野の得点が、分野別満点の 30%以上

の両方を満たさなければなりません。つまり、全体で 6 割以上得点するだけでなく、ス
トラテジ系・マネジメント系・テクノロジー系の各分野で、基準点を越えていなければな
らないのです。

2. 最新の出題傾向(22年春期本試験の傾向)

(1) 出題傾向とテーマの特徴

ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の出題数は、

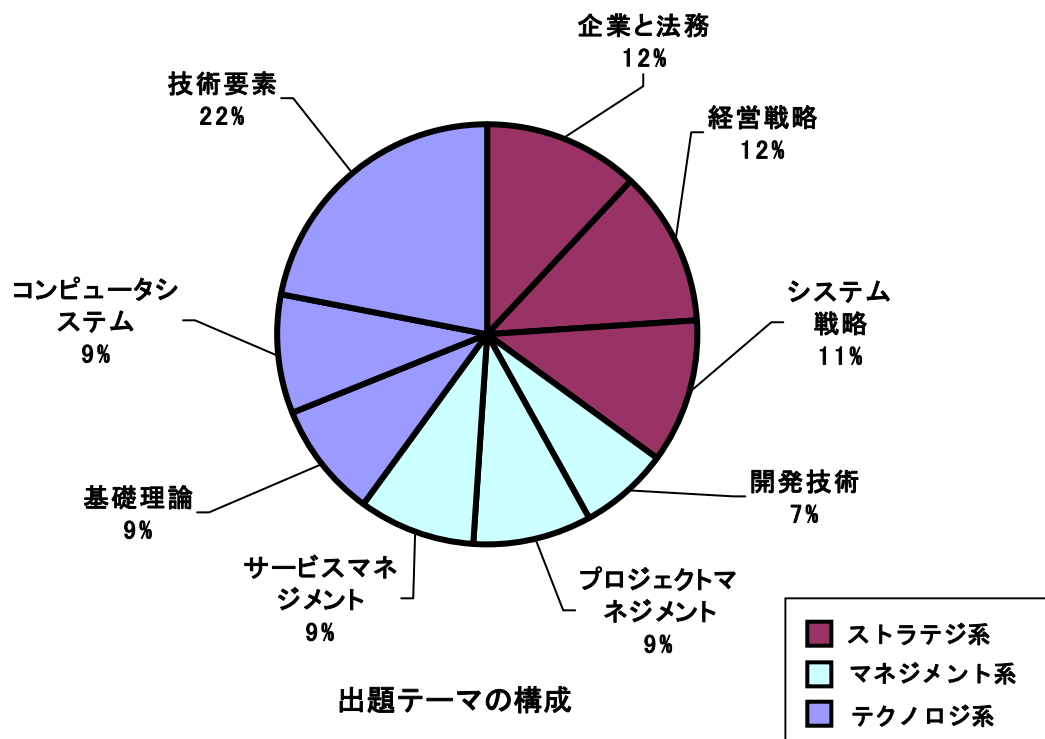
ストラテジ系：小問形式 31 問＋中間形式 4 問 （合計 35 問）

マネジメント系：小問形式 22 問＋中間形式 3 問 （合計 25 問）

テクノロジー系：小問形式 35 問＋中間形式 5 問 （合計 40 問）

であり、各分野の比率は「35：25：40」です。これを細かく分類した出題分類ごとの出題数は、次の通りです。全体的には、出題分類を網羅するように満遍なく出題されていますので、各分野を偏りのなく学習することが大切です。

出題分類	出題率	出題数
企業と法務	12%	12 問
経営戦略	12%	12 問
システム戦略	11%	11 問
開発技術	7%	7 問
プロジェクトマネジメント	9%	9 問
サービスマネジメント	9%	9 問
基礎理論	9%	9 問
コンピュータシステム	9%	9 問
技術要素	22%	22 問



●小問形式

① ストラテジ系（経営全般に関するテーマ）

初出題では「ビジネスモデル特許，TOB(株式公開買付け)，ディスクロージャ，ロングテール」など近代経済に関係が深い用語が出題されています。ただし，出題実績があるテーマも多く見られましたので，知らなくて解けないような問題は少ないと感じるでしょう。

② マネジメント系（IT 管理に関するテーマ）

開発技術をテーマとする問題に「ソフトウェア要件定義・ソフトウェア詳細設計・ソフトウェア結合テスト」など「共通フレーム 2007(SLCP-JCF2007)」の関連用語を多く使っているのが特徴的です。また，上級試験で出題されそうな“管理者・開発者側の知識”を問う問題も見られ，単に利用者だけではなく，管理者や開発者側の視点に立った考え方も求められていると考えられます。

③ テクノロジ系（IT 技術に関するテーマ）

今回は技術的な知識を問う問題が増えています。初出題では「電子透かし，CAPTCHA(キャプチャ)，サーバの仮想化技術」などの最新技術が出題されています。また，基本情報技術者のようなアルゴリズムやデータ構造(スタック)などの知識を要するテーマも見られます。

この分野だけを見れば，IT パスポートは基本情報技術者にステップアップするための知識が要求される傾向にある，といえます。

●中間形式

IT パスポート試験の間 89～100 では「1 問中に 4 設問」の形式で中間が 3 問出題されます。中間は，問題文が長く事例などを用いた応用的な問題となり，基礎知識に加えて，問題読解力・分析力・計算力などが必要となります。

〔中間 A〕 システムの開発計画(マネジメント系 4 設問)

前半 2 設問が WBS による作業分割，後半 2 設問がアローダイアグラムを用いて日程計画を行う問題構成です。

〔中間 B〕 文献貸出管理システム(テクノロジ系 3 設問，ストラテジ系 1 設問)

データベースをテーマとする問題です。主キーの組合せ，DFD，フローチャート，データの抽出という多彩な論点が問われています。

〔中間 C〕 事業戦略立案(ストラテジ系 4 設問)

前半の 2 設問が SWOT 分析による現状分析，後半の 2 設問が戦略の選択という問題構成です。

(2) 難易度について

過去の情報処理技術者試験からそのままの流用は少なく、ほとんどが新作です。実際に問題を解いてみると、前回(21 年秋)と比べて解き易く感じますが、前々回(21 年春)の試験と比べるとやや難しいように感じます。

小問を分野別に見てみると、ストラテジ系は初出題の用語を除くと、シラバスに沿った素直な問題が多く、難易度は標準的であると思われます。マネジメント系では、共通フレームの用語が多用されていますので、これを考慮すると標準～やや難しめであると思われます。テクノロジー系では、基本情報技術者のような技術寄りのテーマも見られますが、基礎知識があれば、比較的答えやすい問題も多いので、標準～やや難しめといえるでしょう。

中間は、各問題の文章ボリュームはそれほど多くありませんが、きちんと考えないと解けない設問もありました。分野別では、マネジメント系とテクノロジー系が標準的、ストラテジ系がやや易しめ、といった印象です。

これらを総合すると、全体的には「標準的な難易度」でしたので、テキスト等による学習をしっかり行い、やや難しめの問題なども加えて演習を積んで、試験に臨まれた方なら、合格基準をクリアするのはそれほど難しくなかったことでしょう。

IT パスポート試験の合格のためには、ストラテジ系・ストラテジ系・テクノロジー系の各分野の知識量が正答率に大きく影響するものと考えられます。

まずはシラバスに沿って知識を習得しながら、基本的な問題に確実に正解できる力を身につけるべきでしょう。やや深い知識を問う問題に対しては、基礎知識をベースとした応用力を発揮できるかがポイントです。小問の事例や計算、中間の応用問題の正答率を高めるためには、類似テーマでの演習経験が大切です。

また、試験では時間上の制約がありますので、各問を解くための時間配分も重要です。前半の小問に時間をかけ過ぎて、後半の中間で時間が足りなくなると、あせりからミス犯すことも考えられますので、演習時に時間を計りながら問題を解く練習をしておきましょう。

3. 次回試験の対策

- (1) 基礎知識の習得をしっかりと
- (2) 弱点分野を作らない
- (3) バランスよく学習するための TAC の学習サイクル
インプット → アウトプット → 再インプット
- (4) 答案練習（問題を解くことで知識のモレ・弱点を抽出）
- (5) 公開模試で腕試し

Memo